

学びや

ヨイムスワップ

生が俗に「えび茶式部」と呼ばれるほど、はかまたよです。また、当時は体操着が制服をシンボルとした高女生が話題となりました。

生からも羨望視されていることが決められました。

京都市内の高女では、平安高女でセーラー制服が導入された1920年以降の10数年間で、制服の洋装化が急速に進みました。

戦前の女子中等教育学校である高等女学校(以下、高女)では、多くの学校で和装制服が定められていました。1899年(明治32)年に高等女学校令が施行され高女生が急増し始めると、えび茶色のはかま姿をした高女

から洋装(セーラー、フレマ行われており、はかまよりも機動性に富むセーラー制服は実用的でした。平安高女では1929年(昭和4)年に冬服には赤いスカーフ(写真①)をネクタイ結びする(現京都女子中・高、東山区)のように当時の制服が現在の制服(中学)にはほそそのまま引き継がれている学校もありま

た。平安高女では1929年(昭和4)年に冬服には赤いスカーフ(写真①)をネクタイ結びする(現京都女子中・高、東山区)のように当時の制服が現在の制服(中学)にはほそそのまま引き継がれている学校もありま

た。平安高女では1929年(昭和4)年に冬服には赤いスカーフ(写真①)をネクタイ結びする(現京都女子中・高、東山区)のように当時の制服が現在の制服(中学)にはほそそのまま引き継がれている学校もありま

た。平安高女では1929年(昭和4)年に冬服には赤いスカーフ(写真①)をネクタイ結びする(現京都女子中・高、東山区)のように当時の制服が現在の制服(中学)にはほそそのまま引き継がれている学校もありま

30年代、現代と同様に

こころは1920年とん。

また、当時の高女生の日記や回想、写真からは、30年代には制服だけではなく、授業形態、休み時間の過ごし方などが、現代とさほど変わらないものになっていたことが分かります。(京都市学校歴史博物館 学芸員 和崎光太郎)



写真1、日本初とされるセーラー制服(左)とレプリカ(平安女学院蔵)

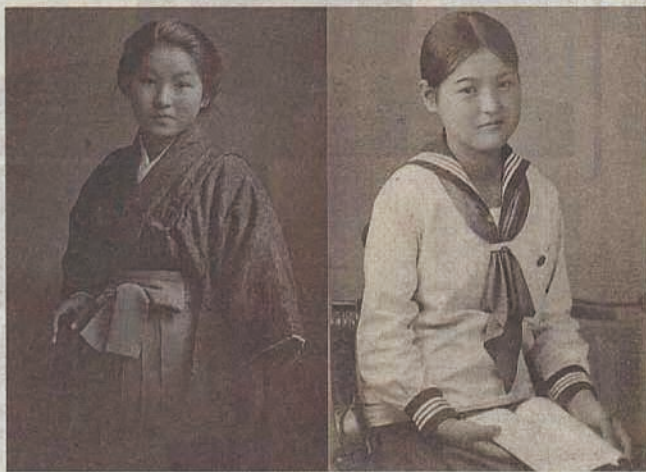


写真2、京都市立第二高女の1920年(左)と31年の卒業記念写真(京都市学校歴史博物館蔵)



今回紹介した資料は学校歴史博物館(下京区)の企画展「京都の高等女学校と女学生」(3月29日まで)に展示しています。